令和５年度

教職課程

自己点検評価報告書

令和６年３月

川口短期大学

川口短期大学　教職課程認定学科一覧

■こども学科

・幼稚園教諭二種免許状

・小学校教諭二種免許状

大学としての全体評価

本学では、「人格の完成をめざし、学術研究を通じて自己の使命とその職責を遂行しうる、創造性豊かな、実践的な人材を育成すること」を建学の精神とし、一貫して「知・徳・技」の修得による調和的な人格の発展を教育理念として確立してきた。「知・徳・技」の修得を具体化するため、少人数制で、一人ひとりの学生を大切にし、温かいまなざしをもって、丁寧に教え育まなければならないという認識に立って、平成 20 年度に「一人ひとりへ温かいまなざし」を大学教育のコンセプトとして定めた。

こども学科では、社会人としての幅広い教養と豊かな人間性を持ち、保育及び教育に関する専門的知識・技能と実践力を身につけた有為な人材を育成し、地域社会に貢献するとともに、望ましい子育て環境の形成に寄与することを教育の目的としている。具体的には、想像力や他者を慈しむ心を育てることを通して、自立した幼稚園教諭、小学校教諭、保育士の養成を目標としている。

目次

Ⅰ　教職課程の現況及び特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域１　教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取組み・・・・・２

基準領域２　学生の確保・育成・キャリア支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

基準領域３　適切な教職課程カリキュラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

Ⅲ　総合評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

Ⅳ　「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

Ⅴ　現況基礎データ一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

Ⅰ　教職課程の現況及び特色

１　現況

（１）大学名：川口短期大学
（２）学科名：こども学科
（３）所在地：埼玉県川口市木曽呂 1511 番地
（４）学生数及び教員数（令和５年５月１日現在）
学生数：こども学科　教職課程履修 183 名／学科全体 185 名
教員数：こども学科　教職課程科目担当（教職・教科とも）15 名／学科全体 15 名

２　特色

こども学科は、社会人としての幅広い教養と豊かな人間性を持ち、確かな保育及び教育に関する専門的知識・技能と実践力を身につけた有為な人材を育成し、地域社会に貢献するとともに、望ましい子育て環境の形成に寄与することを目的とする（学則第 3 条第 3 項）。具体的には、想像力や他者を慈しむ心を育てることを通して、自立した幼稚園教諭、小学校教諭、保育士、ベビーシッターの養成を目標としている。

Ⅱ　基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域１　教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取組み

基準項目１－１　教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

こども学科は、社会人としての幅広い教養と豊かな人間性を持ち、確かな保育及び教育に関する専門的知識・技能と実践力を身につけた有為な人材を育成し、地域社会に貢献するとともに、望ましい子育て環境の形成に寄与することを目的とする(学則第 3 条第 3 項)。具体的には、想像力や他者を慈しむ心を育てることを通して、自立した幼稚園教諭、小学校教諭、保育士、ベビーシッターの養成を目標としている。

〔長所・特色〕

こども学科では免許・資格取得に向けて自己の課題を明確にして意欲的に学ぶために、かねてより学科の課題となっていた 2 年間の学びの可視化にも取り組み、平成 28 年度より「川口短期大学での 2 年間の学び(図 1-①及び②)」と各実習の目標(図 2-①及び②)を入学時に配付し、理解を深めるとともに能動的に学ぶための積極的指導を行っている。

「川口短期大学での 2 年間の学び」は、初年度教育として位置付けている教養科目「知の技術」から、学びの集大成の科目と位置付けている専門科目「保育・教職実践演習（幼・小）」までの一貫した教育体制を整えている本学こども学科の特色を図化したものであり、入学から卒業まで一貫した教育のさらなる充実化を図るとともに、教員が免許・資格に向けて共通の認識をもって指導にあたるための一助となるものである。「知の技術」では、大学生としての学びの姿勢や方法を具体的に指導するとともに、「実習指導(事前)」の内容に連携する内容を取り入れ全体を設計している。「保育・教職実践演習（幼・小）」においては、「実習指導（事後）」の内容を補完するとともに、実習生の視点から保育者・教育者の視点へと移行させることを目的に全 15 回を設計している。

このことにより、より充実した実習指導を行うとともに、免許・資格の取得に向けての学生の自己課題の明確化にもつながっている。

図 1-① 川口短期大学での２年間の学び(保育士資格、幼稚園教諭二種免許状取得の場合)

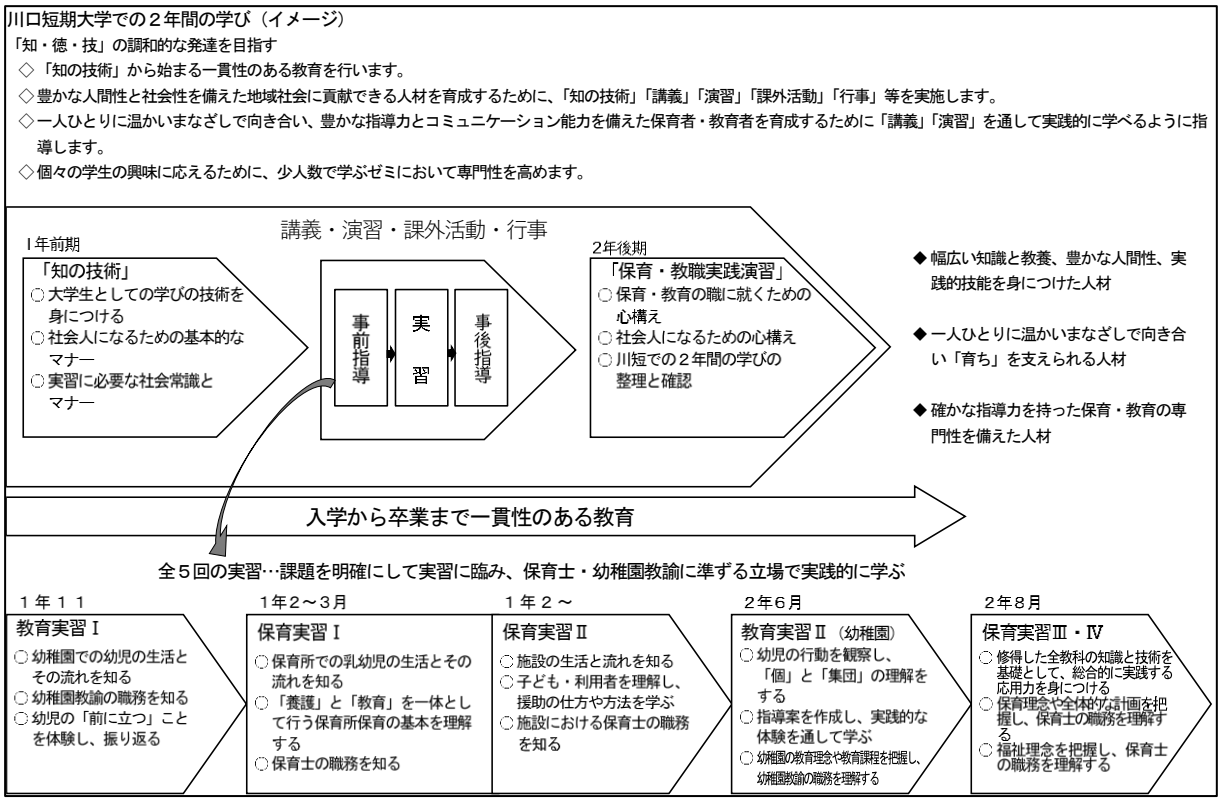


図 1-② 川口短期大学での２年間の学び(保育士資格、幼稚園教諭二種免許状及び小学校教諭二種免許状取得の場合)

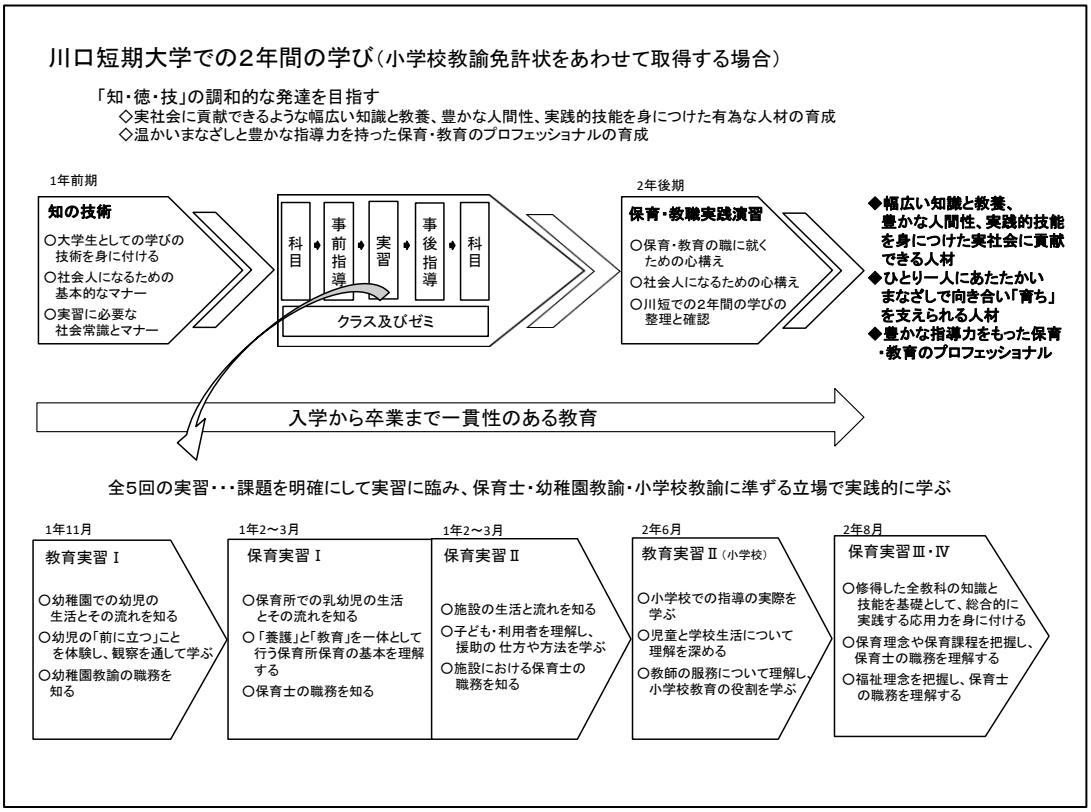
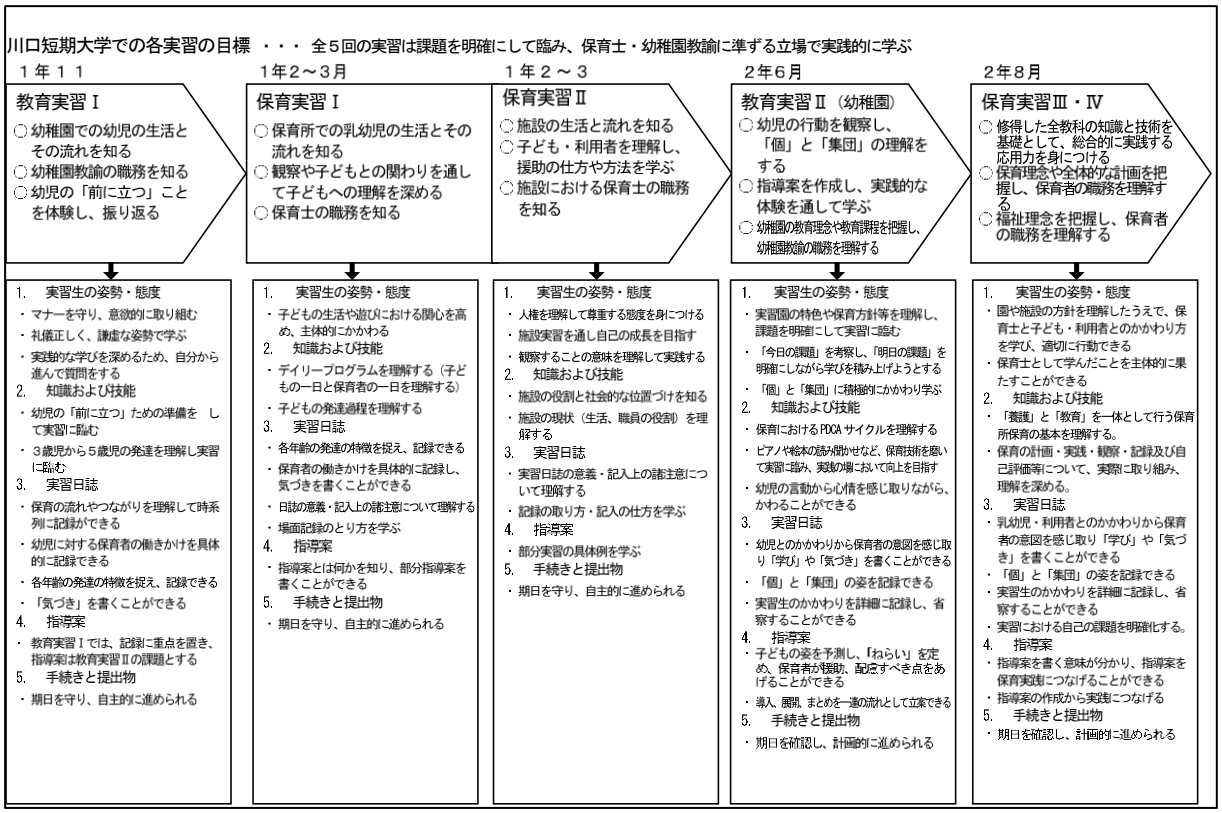


図 2-①　各実習の目標(保育士資格、幼稚園教諭二種免許状取得の場合)



〔取組み上の課題〕

社会のニーズの変化に伴って、養成する人材に求められる知識・技能等も変化することから、各学科の教育課程の在り方の検討とともに、「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」についても適宜点検を行い、必要に応じて見直しを行っていく。

履修できる単位数の上限を定める制度（CAP 制）を令和 5 年度から導入した。
教養科目は、履修してみれば興味をもって学ぶ学生が多いが、科目名だけで難しそうだと感じて履修をさける学生が少なくない。こうした食わず嫌いを減らすには、教養科目が専門科目の学びや就職後の仕事にどれだけ役立つか、具体的に理解してもらう工夫がより一層必要だと思われる。

教育課程内、課程外で充実した職業教育が行われているが、それぞれの担当機関や教職員が個別に教育内容を計画し、実施に至っており、情報共有や連携がやや不足している。キャリアセンターやエクステンションセンター及び教員・保育士養成支援センターの職員と教員との情報共有による一層の連携協力体制や、教員間の一層の情報交換・共有体制を強化していく必要がある。

エクステンションセンターで行われている講座は、時代の要請に応じて開講講座は毎年度変更されているが、今後も効果的な講座を開講していく必要がある。また、卒業後も講座を受講できるということが周知されていない可能性もある。エクステンションセンター講座の内容を充実させるとともに、卒業生はエクステンションセンター講座を受講できるという情報を、同窓会の総会で案内しているが、卒業時の案内や本学ウェブサイト、同窓会等で引き続き周知徹底する。

今後も企業社会及び現場と交流を図り、継続的に実務経験を補っていく必要がある。引き続き、「インターンシップ」や「知の技術」等の授業、またその他の機会を通じて、職業教育を担当する教員が実務経験の豊富な講師や現場で活躍する人材と連携し、教員の資質向上に努める。

大学教育 3 ポリシーガイドラインに沿って改めて策定した「入学者受け入れの方針（アドミッ

ションポリシー)」に従い、入試形態、入試広報のより効果的なあり方の検討を通じて収容定員の充足に向けた取組みを行う。

教職課程及び保育士養成課程で必修科目とされている「保育・教職実践演習（幼・小)」で各学生が学びの軌跡を記載する､｢学修評価表(かわたんシート)｣が両学科に導入された｡これにより、両学科において学生一人ひとりが自己の学習成果を確認し向上させるための仕組みが整った。今後、「学修評価表（かわたんシート）を基に、「学習成果」の PDCA サイクルを回していくことが大きな課題となる。

＜根拠となる資料・データ等＞

・川口短期大学令和３年度自己点検評価報告書

https://www.kawaguchi.ac.jp/files/libs/5460/202303171101589827.pdf

・令和５年度履修のてびき

基準項目１－２　教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

川口短期大学では、各実習における訪問報告書の管理も教員・保育士養成支援センターで行っている。訪問報告書は実習指導の際の資料として活用しており、教員・保育士養成課程委員を中心として全教員が教員･保育士養成支援センターと連携し教員が閲覧可能な状態で保管している。

免許・資格取得に向けた質の高い実習指導を目指し、「実習のてびき｣を作成している。実習に関する手続き全般、実習を実施するために単位を修得しておかなければならない科目等の必要な情報を網羅する内容であることに加え、実習生の姿勢やマナーなど実習教育に関する内容まで掲載している。平成 28 年度から毎年実態に合わせて内容の一部を改訂し充実を図っているが、平成 30 年度にさらに内容を吟味し､学生にとってわかりやすい｢実習のてびき｣となるよう改善した。

〔長所・特色〕

大学全体として教員･保育士養成業務を運営していくため､事務組織としての｢支援センター｣とは別に、大学の委員会として、「教員・保育士養成課程委員会」を設置しており、委員長は「支援センター」長が務めている。この委員会の審議事項は、各免許・資格に関する業務の企画や調整等であり、関係学部・学科から選出される委員等で月に１回程度の会議を開催している。保育士資格を扱う保育士養成課程と、幼稚園から高等学校の教員免許を扱う教育職員免許課程について、各学部・学科の運営と齟齬を来さないように意見集約を図っている。

〔取組み上の課題〕

平成 27（2015）年度より埼玉学園大学と合同で教職課程及び保育士養成課程の登録者に向けて交流の場として「実習体験談と合格体験談を聞く会」を実施し、体験者の具体的なエピソードの紹介や質疑応答を通して､実習や採用試験に関する実体験について詳しく知る機会を設けてきた。しかし､昨今のコロナ渦の中にあり､対面での実施が困難な状況となっているため､令和 2(2020)年度から、体験談をあらかじめ動画撮影し、それを配信するという形で実施した。動画配信の方

式にしたことにより、これまで会に参加できなかった学生も、いつでもどこでも見ることができるようになり利便性が増えたため、コロナ渦が落ち着いた現在も、動画配信にて実施している。

＜根拠となる資料・データ等＞
・川口短期大学令和３年度自己点検評価報告書
https://www.kawaguchi.ac.jp/files/libs/5460/202303171101589827.pdf

基準項目１－３　関連施設及び設備の状況について

〔現状説明〕

本学キャンパスの校地等面積は、併設校である埼玉学園大学と共用のものを含め、校地面積、校舎面積のいずれも短期大学設置基準を上回っている。校舎には、講義室、演習室、情報ネットワーク室のほか、音楽教室、ピアノ個人レッスン室、乳児保健実習室、図工教室、教員研究室などがある。運動施設として、木曽呂陸上グラウンドのほか、校舎敷地内に体育アリーナ、多目的ルーム、テニスコートがあり、学生は、授業をはじめ課外でも様々な運動が可能となっている。

情報メディアセンター(図書館)は、埼玉学園大学との共用の施設として設置されており、規則や規程、要項に基づいて管理、運営を行っている。車いすでも利用しやすいよう、通路は広めに確保されており、車いす用トイレも設置されている。平日は９時から 21 時まで開館し、授業終了後の夜間においても、利用者に資料の閲覧及び勉学の場を提供している。また、映像資料視聴のための視聴覚ブース、情報検索やレポート作成のための PC20 台のほか、個人 PC の接続が可能な情報コンセント(有線 LAN)や無線 LAN も設置されており、図書資料に限らず、データベース等の各種媒体資料の整備と共に、学生の勉学をサポートできる体制をとっている。その他、施設設備の維持管理に関しては、各種規程を定め、適正に事務処理が行われるよう努めている。

校地・校舎面積　（㎡）

区　分	所有面積	大学設置基準上の必要面積	併設(短期大学)の必要面積	収容定員１人当たり面積
校　地	37,561.55	1,700.00	5,800.00	21.10
校　舎	17,197.70	9,030.26	4,650.00	9.84

〔長所・特色〕

校舎面積の内訳の主なものは、講義室 13 室、演習室８室、情報ネットワーク室２室（面積合計 147.60 ㎡）である。また、音楽関連の教室として、音楽教室１室（面積 130.00 ㎡)、ピアノ個人レッスン室８室（面積合計 72.44 ㎡)、乳児保健実習室（面積 114.99 ㎡）などとなっている。教員研究室は、26 室となっている。このほか、運動施設として、前述の運動場のほか、校舎敷地内に体育アリーナ（面積 1,093.00 ㎡)、多目的ルーム（面積 130.00 ㎡)、テニスコート３面（面積 2,739.00 ㎡）があり、学生は、授業をはじめ課外でも様々な運動が可能となっている。

情報メディアセンター(図書館)(以下「メディアセンター」)については、埼玉学園大学との共用

の施設として設置されており、「埼玉学園大学・川口短期大学情報メディアセンター規則」、「埼玉学園大学・川口短期大学情報メディアセンター委員会規程」、「埼玉学園大学・川口短期大学情報メディアセンター図書資料管理規程」、「埼玉学園大学・川口短期大学情報メディアセンター利用規程」、「埼玉学園大学・川口短期大学情報メディアセンター学外者利用要項」に基づき、管理、運営を行っている。

メディアセンターは、面積 1,200.29 ㎡、閲覧座席数 174 席を有し、約 20 万冊収納可能である。車いすでも利用しやすいよう、通路は広めに確保されており、メディアセンター内には車いす用トイレも設置されている。現在、蔵書数約 11 万 8 千冊を擁しており、平日 9 時から 21 時まで開館し、授業終了後の夜間においても、利用者に資料の閲覧及び勉学の場を提供している。また、メディアセンターには、映像資料視聴のための視聴覚ブース 8 席、情報検索やレポート作成のための PC20 台のほか、個人 PC の接続が可能な情報コンセント(有線 LAN)や無線 LAN も設置されており、図書資料に限らず、データベース等の各種媒体資料の整備と共に、学生の勉学をサポートできる体制をとっている。

〔取組み上の課題〕

情報メディアセンターでは、メディアセンター機能の利活用が促進されるよう、メディアセンターツアー、データ検索講習会、企画展示等を引き続き実施する。

キャリアセンターでは、入学時からの連続的かつ体系的な就職支援プログラムの充実を図るとともに、学生・教職員間で就職に関するコミュニケーションが密接に取れるような体制を整備する。

エクステンションセンターでは、公立保育所、公立小学校等への就職率が向上するような特別支援講座を開設しているが、公務員試験対策講座との内容のすり合わせと役割分担を更に検討する。また、学生の動向を踏まえ、就職活動に資する講座の整理・拡充を行う。また、受講学生の資格合格率の向上についても引き続き検討する。

＜根拠となる資料・データ等＞

・川口短期大学令和 3 年度自己点検評価報告書

https://www.kawaguchi.ac.jp/files/libs/5460/202303171101589827.pdf

基準領域２　学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目２－１　教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

「入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）」は、学生募集要項に掲載するとともに、本学ウェブサイトに掲載し、学内外に公表している。

入学者の選考については、入学者選考に関する規則に基づき、学長を委員長とする入試委員会が実施している。また、学生募集に関する広報活動の企画、連絡調整及び事業実施体制等については、本学が埼玉学園大学と合同で設置している学生募集・広報活動協議会が審議・検討を行っている。この協議会の方針に基づき、学生募集・広報センターが学生募集及び学生募集に関する広報活動を企画・実施することとなっている。これらの業務の事務は、入試広報課が行い、アドミッション･オフィスの機能を果たしている。

高校生、保護者その他の関係者に、本学の人材養成目的、アドミッション・ポリシー、教育内容、教育システム、入試内容などの関係情報を理解していただくために、学生募集・広報センターが中核となって実施している主な広報活動には以下のものがあり、こども学科の入学定員充足に向けて積極的な学生募集を進めている。

①オープンキャンパス、大学説明会等の実施

オープンキャンパスは、年間計画に沿って実施され（令和５年度は 11 回実施）、受験生、保護者に対する大学概要説明、学科概要説明、模擬授業、キャンパスツアー、個別相談などは、全教職員及び学生ボランティアが参加して対応している。学生ボランティアが参加者を学内案内するキャンパスツアーでは、学内施設の見学やカフェテリアでのランチ試食などが盛り込まれており、大学の様子が学生から直に聞きやすいと、参加した高校生からは大変好評である。11 月からはオープンキャンパスに代えて進学相談会として受験希望者へ対応している。さらに、県内で開催される相談会にも参加し、本学のカリキュラム、入試方法、学生生活等を説明している。説明の基本資料は、『学生募集要項』、『ガイドブック』であり、それらに、アドミッション・ポリシーや、学費などの詳しい情報が掲載されている。な

②高等学校訪問

入学後の学生の生活や学業、進路などについての報告と、入試結果の報告及び次年度入試に関する説明など、高校側と意志疎通を綿密に図るために、活発に高等学校訪問を実施している。県内を中心とする高校訪問は、入試広報課職員が主に担当している。

③ウェブサイトによる広報

本学ウェブサイトには総合型選抜試験を含めた入試日程や入試の情報、資料請求、質問等の問い合わせ先、学科紹介、進路情報、キャリア支援、インターンシップ、授業料その他入学に関する経費など、最大限の情報を掲載し、受験生や資料請求者の便宜を図っている。

④資料請求者への対応

電話、メールや葉書等による問い合わせや資料請求者を対象に、大学案内、募集要項、本学の情報誌「キャンパスライフ」(年 3 回発行)、オープンキャンパス等の案内を記したリーフレットな

ど、できる限り常に新しい情報を送付している。

以上のような本学からの能動的な情報の発信とともに、受験の問い合わせなどに対しては、入試広報課の職員ができるだけ丁寧に応対するように努めている。

本学の入試形態別の選抜方法の概要は次のとおりである。いずれも、入試委員会、教授会の議を経て合否を最終的に決定しており、公正かつ正確を期している。

・指定校推薦型選抜

高等学校等との信頼関係に基づき、高等学校等において全般的な科目について高い学力・人物ともに優れていると学校長が認めた人物について書類審査及び口頭試問を行い、総合的に判断している。

・公募推薦型選抜

高等学校等における学習のみならず、情報系、実務系、言語系の資格取得に努力し、課外活動に熱心に取り組むなど、様々な分野において優れた成果を残した人物であること、学校長又は教諭が認めた人物について審査及び口頭試問を行い、総合的に判定している。

・総合型選抜

オープンキャンバス、学校見学などに参加した人物に対して、高等学校での学習状況などと併せ、エントリーカードの記述内容の審査と口頭試問を行い、本学の教育方針を十分に理解しているかを確認して総合的に判断している。

・一般選抜

「国語総合」の学力試験、調査書及び「口頭試問」の結果を基に、本学で学修するに十分な能力を有すると判断できる人物を選抜している。

〔長所・特色〕

こども学科は能力別授業や指導のための音楽経験調査と音楽確認テストを行い、ピアノ初心者、経験者によるクラス分けをしている。なお、合格通知とともに、音楽については、入学までに学んでほしいレベルまでのピアノの楽譜を送付し、4 月入学から半年後の実習に備えている。

〔取組み上の課題〕

社会のニーズの変化に伴って、養成する人材に求められる知識・技能等も変化することから、各学科の教育課程の在り方の検討とともに、「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」についても適宜点検を行い、必要に応じて見直しを行っていく。

教職課程及び保育士養成課程で必修科目とされている「保育・教職実践演習（幼・小)」で各学生が学びの軌跡を記載する「学修評価表(かわたんシート)」が両学科に導入されている。これにより、両学科において学生一人ひとりが自己の学習成果を確認し向上させるための仕組みが整った。今後、「学修評価表（かわたんシート）を基に、「学習成果」の PDCA サイクルを効率的に運用していくことが大きな課題となる。

＜根拠となる資料・データ等＞

・川口短期大学令和 3 年度自己点検評価報告書

https://www.kawaguchi.ac.jp/files/libs/5460/202303171101589827.pdf

基準項目２－２　教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

本学では、学生の卒業後の職業生活等を支援するため、教育課程に関しては、教務委員会が中心となり、教育課程外については、エクステンションセンターとキャリアセンターが連携を図り、短期大学設置基準第 35 条の 2 の規定の趣旨に添って取り組む体制を整備している。また、本学及び埼玉学園大学合同のキャリアセンター委員会には、本学から５人の教員が委員として参加している。

〔長所・特色〕

教育課程内の取組みとしては、2 年次、夏の保育実習を終えてから、保育所及び幼稚園等への就職活動が本格化する。

キャリアセンター隣接の資料コーナーでは数多くの学校法人、社会福祉法人、企業、地方公共団体の幼稚園・保育所・認定こども園、福祉施設等の求人ファイルを用意し、求人票、受験報告書、パンフレットや関連する新聞記事等就職に関する情報を提供している。こども学科では就職情報ナビ等への登録や就職情報も学内無線 LAN を利用して行っている。さらに情報収集が容易にできるよう、キャリアセンターに設置しているパソコンで求人情報等も閲覧できるようにしている。キャリアセンターでは毎週新しい求人を更新する毎に、こども学科の教員に情報を伝えており、学生の就職活動に対してはきめ細かい個別指導がチューターを通じてなされている。

教員による就職・進学支援としては、ゼミ(チューター)制度の下で、ゼミ担当者が、ゼミ等の時間を活用して、定期的に個別面談、履歴書の添削、面接指導などの支援を行っている。学生の就職活動に対してはきめ細かい個別指導がチューターを通じてなされている。就職先として、幼稚園、保育所、各種福祉施設、一般企業等があげられる。

平成 28 年度からは、公立保育所、公立小学校等への就職率が向上するように「公立小・保育士特別支援講座(短大)」を開設した。これは、平成 27 年度に行っていた学科独自の公務員対策講座をエクステンションセンター講座と位置づけ、公立小学校と公立保育所の採用試験別、更に学年別に分けたコースを設け、基礎・実践と段階的に学べる内容としたものである。また、従来から開講されている教員採用試験対策講座・地方初級公務員試験対策講座は 5 月に開講することで、それぞれの内容のすり合わせと役割分担も検討し実施している。

〔取組み上の課題〕

令和５年度に、本学の教育及び学生支援の充実・改善の参考とするため、「就職先アンケート」を実施した。就職先アンケートは、過去 3 年間に 2 名以上卒業生を採用している一般企業、幼稚園、保育所合計 87 件を対象に行い、回収率は 24.1%であった。結果によると、本学の卒業生については、社会人基礎力や学士力として重視されるチームワーク力、傾聴力、計画性などの点で評価が高く、今後も継続的に採用したいという企業、団体等がほとんどであった。どちらともいえないという回答を除くと、各学科のディプロマ・ポリシーは概ね反映されている。

また、前回と同様 Web を活用して実施した結果、回答率が減少した。また、未回答の設問も多いため、次回はより回答してもらえるよう改善する。

＜根拠となる資料・データ等＞

・川口短期大学令和３年度自己点検評価報告書

https://www.kawaguchi.ac.jp/files/libs/5460/202303171101589827.pdf

基準領域３　適切な教職課程カリキュラム

基準項目３－１　教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

こども学科は、社会人としての幅広い教養と豊かな人間性を持ち、確かな保育及び教育に関する専門的知識・技能と実践力を身につけた有為な人材を育成し、地域社会に貢献するとともに、望ましい子育て環境の形成に寄与することを目的とする(学則第 3 条第 3 項)。具体的には、想像力や他者を慈しむ心を育てることを通して、自立した幼稚園教諭、小学校教諭、保育士、ベビーシッターの養成を目標としている。

〔長所・特色〕

こども学科における「学習成果」は、学科の人材養成目的に沿って編成された教育課程において、卒業要件を充足する各授業科目の単位取得を前提として、保育者・教育者として活躍できる専門的知識・スキルと幅広い教養が身につくとともに、保育・教育現場で必要な表現力やコミュニケーション能力を向上させることで示されるものである。

卒業に必要な 68 単位は、憲法、文章表現、情報その他の教養科目群から 6 単位以上、保育者・教育者として必要な専門知識・技能を身につけるための専門科目群から 46 単位以上、保育・教育学演習（ゼミ）2 単位となっている。それに加えて、学生は保育士資格、幼稚園教諭二種免許状、小学校教諭二種免許状、ベビーシッター資格の中から希望進路にあわせて複数の資格、免許取得を目指している。

また、2 年間の中で、初年次教養科目である「知の技術」に始まり、最終年次専門科目の「保育・教職実践演習（幼・小)」を履修する過程を経て、学修内容の自己評価と次段階の目標設定を行う。その際に活用されるのが学修評価表（かわたんシート）であり、一人ひとりの学生が学習成果を自己評価し、さらに教職員の評価及び指導を得ることで、PDCA サイクルに基づいた教育システムによる「学習成果」の達成及び査定が可能となっている。

〔取組み上の課題〕

建学の精神、教育目的、大学コンセプト、大学教育 3 ポリシーに沿って、社会のニーズの変化に適切に対応できるよう教育課程の見直しを進める。

「学習成果」の内容やアセスメントを大学構成員間で共有するとともに、本学ウェブサイトのほか、学内外に表明する方法について検討する。

また、「学習成果」の査定(アセスメント)として、令和５年度に実施した就職先アンケートの分析をはじめ、各アセスメントの対象に応じた効果的な評価の方法について検討していく必要がある。このほか、学生個人の「学習成果」の査定(アセスメント)資料として、こども学科で活用している学修評価表（かわたんシート）を参考に全学的に導入可能な方法の導入を検討する。

このようにして、大学教育の質的な改善に向け、「学習成果」をキーワードに、教育課程やプログラム、学習者個人等の各レベルで、計画(Plan)の設定、計画実現に向けた実行(Do)、結果の評価(Check)、改善(Action)の PDCA サイクルを機能させることが課題になる。

＜根拠となる資料・データ等＞
・川口短期大学令和３年度自己点検評価報告書
https://www.kawaguchi.ac.jp/files/libs/5460/202303171101589827.pdf
・令和５年度履修のてびき

基準項目３－２　実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

こども学科では、「知・徳・技」の調和的発達を促すという本学の建学の精神のもとに、社会人としての幅広い教養と豊かな人間性を持ち、確かな保育及び教育に関する専門的知識・技能と実践力を身につけた有為な人材を育成していくために、5 回にわたる教育・保育現場における実習が学びにつながるように、教員が巡回指導にあたり、各学生の指導に当たっている。

社会のニーズの変化に伴って、短期大学において養成する人材に求められる知識・技能等も変化することから、各学科の教育課程の在り方は適宜検討され、職業教育における社会的役割を果たすことに努めている。

職業教育の分担については、教員側では、チューター制度とオフィスアワーがあげられる。チューター(ゼミ担当教員、クラス担任)は個々の学生にきめ細かく、責任を持って指導・助言を行っている。ゼミ・クラス以外でも各教員がオフィスアワーを設定し学生が自由に相談できる体制が整っている。「保育・教職実践演習（幼・小)」の授業においては、幼稚園、保育園、保育園以外の児童福祉施設等、小学校に就職した卒業生からそれぞれ１名ずつ計４名を外部講師として招き、それぞれの現場について学び、広い視野に立って教育・福祉についての理解を深めている。

〔長所・特色〕

平成 21 年度より埼玉学園大学との共用で、教職課程及び保育士養成課程の履修等を支援するために教員・保育士養成支援センターを設置した。このセンターでは、主に学生の幼稚園、小学校、保育施設などへの実習に関する連絡、調整を行っており、この中で、教員や保育士として就職した卒業生の情報を聴取する機会がある。また、教員の教育実習・保育実習の巡回指導では、卒業生が就職した学校・園が対象になることもあり、その際に評価を聴取することもある。
多数の企業や学校・園から継続的に求人をいただいており、総じて進路先からの評価は高いと認識しているが、卒業生の就職先から聴取した評価については、授業内容や方法の改善に生かすよう努めている。

さらに、本学には教育課程外の職業教育の機関としてエクステンションセンターがある。本センターにおいては、学生の資格取得や就職対策に係るキャリア支援講座の充実等を通じて、職業教育を行っている。平成 20 年 2 月に「埼玉学園大学・川口短期大学エクステンションセンター規則」を制定し、それに伴い設置されたエクステンションセンター委員会が、企画・実施に関すること等の審議を行っており、職業教育の役割・機能・分担を明確に定めている。

こども学科では、初年度教育として位置付けている教養科目「知の技術」から、学びの集大成の科目と位置付けている専門科目「保育・教職実践演習（幼・小）」までの一貫した教育体制の下で職業教育を実施している。「知の技術」では、大学生としての学びの姿勢や方法を具体的に指導す

るとともに、「実習指導(事前)」の内容に連携する内容を取り入れ全体を設計している。「保育・教職実践演習（幼・小）」においては、「実習指導(事後)」の内容を補完するとともに、実習生の視点から保育者・教育者の視点へと移行させることを目的としている。そのため、授業の前半では、実際に保育者として働いている卒業生や、保育園の園長などを外部講師として招き、実践的な学びを深める講義が展開されている。

〔取組み上の課題〕

エクステンションセンターの講座においても、学生への受講後のアンケートを全て実施しており、講座に関する内容・講師の教え方等の学生側の意見集約を行っている。講師側にも学生の受講姿勢・理解状況などの調査を行い、それを参考にして、翌年度の講座の内容・講師派遣会社の選別等の検討材料としている。

＜根拠となる資料・データ等＞

・川口短期大学令和３年度自己点検評価報告書
https://www.kawaguchi.ac.jp/files/libs/5460/202303171101589827.pdf
・令和５年度履修のてびき
・令和５年度学生便覧

Ⅲ　総合評価

本学では、教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取組み（基準１）として、社会人としての幅広い教養と豊かな人間性を持ち、確かな保育及び教育に関する専門的知識・技能と実践力を身につけた有為な人材を育成し、地域社会に貢献するとともに、望ましい子育て環境の形成に寄与することを目的とする(学則第 3 条第 3 項)。具体的には、想像力や他者を慈しむ心を育てることを通して、自立した幼稚園教諭、小学校教諭、保育士、ベビーシッターの養成を目標としている。

教職課程に関する組織的工夫としては、川口短期大学における資格に関する課程の事務全般を行う「支援センター」を置き、関連施設及び設備としては、音楽室、ピアノ個人レッスン室、ピアノ個別指導室、図工教室、乳児保育実習室、情報ネットワーク室、体育アリーナ、多目的ルーム、テニスコート、情報メディアセンター(図書館)等を備え、学生の学びをサポートできる体制をとっている。

学生の確保・育成・キャリア支援（基準２）をするために、学生の確保の点では学生募集・広報センターを置いて、高校生、保護者その他の関係者に、本学の人材養成目的、アドミッション・ポリシー、教育内容、教育システム、入試内容などの関係情報を理解していただくために広報活動を行っている。学生の育成・キャリア支援の点では、エクステンションセンターとキャリアセンターを置き、学生の各種資格取得、国家試験対策等を支援、学生の就職及び進学活動の支援を行っている。

適切な教職課程カリキュラム（基準３）として、2 年間の中で、初年次教養科目である「知の技術」に始まり、最終年次専門科目の「保育・教職実践演習（幼・小)」を履修する過程を経て、学修内容の自己評価と次段階の目標設定を行う。その際に活用されるのが学修評価表（かわたんシート）であり、一人ひとりの学生が学習成果を自己評価し、さらに教職員の評価及び指導を得ることで、PDCA サイクルに基づいた教育システムによる「学習成果」の達成及び査定が可能となっている。

今後の課題としては、社会のニーズの変化に伴って、養成する人材に求められる知識・技能等も変化することから、各学科の教育課程の在り方の検討とともに、「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」についても適宜点検を行い、必要に応じて見直しを行っていく必要がある。また、教育課程内、課程外で充実した職業教育が行われているが、それぞれの担当機関や教職員が個別に教育内容を計画し、実施に至っており、情報共有や連携がやや不足している。キャリアセンターやエクステンションセンター及び教員・保育士養成支援センターの職員と教員との情報共有による一層の連携協力体制や、教員間の一層の情報交換・共有体制を強化していく必要がある。

Ⅳ　「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

まず、教員・保育士養成課程委員長を中心に、教職課程の自己点検評価の実施方針を決定した。その後、教職課程に係る業務を行う教員・保育士養成支援センターを中心として、就職支援を行うキャリアセンター、資格取得の支援を行うエクステンションセンターとも取組み内容を確認し、報告書の原案を作成した。

最終的に、教員・保育士養成課程委員会にて内容の点検を行い、この「教職課程自己点検評価報告書」を完成した。

Ⅴ　現況基礎データ一覧　　令和５年５月１日現在

学校法人　峯徳学園	
川口短期大学　こども学科	
１　卒業者数、教員免許取得者数、教員採用者数等	
①　昨年度卒業者数	101 名
②　①のうち、就職者数 （企業、公務員等を含む）	96 名
③　①のうち、教員免許取得者の実数 （複数免許取得者も１と数える）	93 名
④　②のうち、教職に就いた者の数 （正規採用＋臨時的任用の合計数）	20 名
④のうち、正規採用者数	19 名
④のうち、臨時的任用者数	１名
２　教員組織	

	教授	准教授	講師	助教	その他（　　）
教員数	４名	５名	６名	０名	

相談員・支援員など専門職員数　　１名